



2018.11.4 No.2

# 2018 合同教育研究全道集会だより

発行:2018 合同教育研究全道集会実行委員会事務局

## 新学習指導要領を主体的につかむ！

### 背筋がのびた梅原利夫記念講演



もと直接接触する教職員あるいは父母、あるいは地域住民の方々との直接の接触の場そのものには権力は介入できないということです。制度とか縛りとか指令とかシステムで縛ろうとされているのですが、最終的には直接的な人間と人間の教育的な働きかけあいの局面には乱暴に介入させてはならないし、することもできないわけです。システムがいかに問題を持っていても、直接子どもに対して責任を持っている私たちの仕事は非常に重要だということを確認したいと思います。いろいろ問題のある学習指導要領でさえも次の一句は消し去ることはできません。それは教育課程というのは子どもの実態や地域の実態に即して各学校が編成して実践するものということです。ここに私たちが依拠すべき点があります。私たちが主体的につかんだ上で切り返して実践していく足場をしっかりと私たちは持つために指導要領を主体的につかむことが必要だということです。

何のために学習指導要領を主体的につかむのか？「アクティブラーニング」や「対話的で深い学び」という言葉が現場には非常に形骸化されて機械的に下ろされていることを非常に危惧しています。主体的につかむということは、その可能性や弱点や矛盾やあるいは無理難題というものにしっかりと目を向けて、その克服の緒、克服の目をわたしたち自身の力でつかんでいくということです。わたしが指導要領体制について話をすると指導要領の構造や縛り強さによって指導要領体制が非常に大きく見えてしまっていますが、むしろ一見美しい見事な様に見える指導要領体制なるものも実は、教育の理念の立場からみると、いろいろ無理難題や未成熟なことが無責任に散りばめられています。その矛盾や弱点というものを私たちが自分の目で、自分の力で主体的につかみ取っていくためであることを強調したい。いま権力とか国の支配をしている人たちはなんとか教育の中に乱暴に介入して自分たちだけがめざす子どもの姿を権力的につくろうとして、教育現場をその手段・道具にしようとしています。しかし、教育の現場で明らかなことは、子

人間を育てる営みに冷たい数値目標追求方法はなじまないこと、教育という総合的な営みに点検・支配・服従の人間関係は逆効果であるということ声を大にして言っていきたいし、いまこそ教育実践に自主性、柔軟性、創造性、そして一番重要なことですが専門職



性のうねりを巻き起こす必要はないかと思っています。

特別企画：梅原先生に聞く



### テーマ討論①

#### 新学習指導要領をつつみこむ、ゆたかな“学び”を ～教師と子どもで、しなやかに実践をつくる～

小学校の現状やその中で大切にしたい子どもの「育ち」と「学び」について3名から報告があり、その後、移行期間に入る中学校、高校の方も含めて、打開の方向について議論しました。学習指導要領が実施される中でも、しなやかな実践が報告されました。

#### ①太田慶一郎さん（札幌市小学校）

運動会の練習時間が5時間しかないので団体競技廃止、表現は最小限です。学習発表会も練習時間が5時間しかなく、劇が廃止に。そんななかで1年生のひらがな入門期に、ひらがなバトルカードの制作で盛り上がりました。職場の20代の先生を作文の会に誘ったら意外と参加してくれました。また、組合、民教、札教研など、各分野から講師をよんで学んでいます。

#### ②高橋公平さん（石狩市小学校）

学習指導要領で謳われた「資質・能力」を身につけるとよりよい社会を創ることができる人になるのでしょうか？子どもにとって地域が身近な社会なので、学びを通してヒト・モノ・コトに直接かかわるようにしたい。石狩の漁業に関連し、朝市見学、魚や漁具に触れる、食べる、ニシンはずしなどの学びを行い、地域の特色を学びにいかしています。

#### ③宮西和美さん（上士別小学校）

道徳が特別な教科になり、結論から言えば子どもに押し付けたくない。できれば子どもの声から広げていきたい。子どもはすごく素直で、学習指導要領通りの答えが返ってきそうです。教師の発問で、いろんな意見や見方が最近出始めた。3・4年生の社会・理科で外に出る学習があり、のびのび学習している。子どもの要求から立ち上がる活動も大切にしています。

### テーマ討論③ 若者の“グチ”から「基本的人権」・ 「未来」を考える 「新人は人より早く出勤しろ」ってか?!

「1人の若者として、今何を考えているのか、何に困っているのか、どんなことがモヤモヤしているのかを話しあいましょう。」司会者が切り出すと、二人の教育大4年生は、大学でのまわりの学生との人間関係、学びに対する向き合い方にストレスやいらだちを感じていると話します。二人の若い女性労働者(青年ユニオン)は、それぞれ「新人が2次会に来ないなんてあり得ない、新人は人より早く出勤しろ」、「飲み会に呼ばれ、翌朝まで社長に付き合わされたり、あまりの長時間勤務で退職を願い出たらさらに仕事を上乘せされた」と話し、青年ユニオンとして団体交渉に臨んだとのことでした。

その後、若い方々20人がそれぞれ5人くらいずつグループになり、30分ほど思い思いに語り合いました。遠巻きの“若くない人”達は、ずっと熱心に聞き耳を立てていました。その姿も本当に素敵でした。「ブラック企業や、今の教育の悩みなど、話題にはなりますが、そのまっただ中にいる方の超リアルな話は思わず聞き入ってしまいました。悩みを語りながらも、他の人の話を真剣に聞き、前へ進もうとしている若者達にたくましさを感じました」と退職間近の方が感想を記してくれました。



**全道合研への参加ありがとうございました。  
明日へのヒントは見つかりましたか？  
是非来年も、つどい、交流したいと思います。  
くれぐれもお気を付けてお帰り下さい。**